



## 「自ら学び続ける教職員」を目指して 新たなステージへの第一歩

Photo by Moto

### 初任者・新規採用者研修共通

#### 「教育実践」講座【2/1】

本年度、新しく採用された教職員の締めくくりの研修講座を2月1日に行いました。

各校種・職種別の研修では、「**センター研修で学んだこと**」など3つの柱で本年度の実践を振り返り、「**共感を大切に、子どもたちを理解できるようになりたい**」「**授業で勝負できるようになりたい**」など、教職員としての自分の進む方向性も含めて活発に協議を行いました。

全体研修では各校種1名の実践発表者が、苦労と努力を重ねて積み上げた、本年度の実践と今後の抱負、先輩の先生方の支えや励ましへの感謝について力強く語りました。

協議や代表者の発表の中で共通して伝わってきたのが、**初心を忘れず向上心を持ち、「学び続ける教職員でありたい」という強い意志**です。この1年での学びをさらに発展させ、2年目、3年目の自分の成長につなげてください。



実践発表者

幼稚園	: 安田 優花 (木津川市立高の原幼稚園)
小学校	: 渡邊 毅 (城陽市立寺田南小学校)
中学校	: 梅田 剛 (向日市立勝山中学校)
高等学校	: 有賀 恵弥 (京都府立福知山高等学校三和分校)
特別支援学校	: 毛呂 浩之 (京都府立中丹支援学校)

### 2年目教員「ステップアップ3」講座 (センター、北部)

a【12/26】 b【1/5】

全3回にわたり実施した2年目教員「ステップアップ」講座が終了しました。昨年度、1年間の初任者研修を終えて迎えた2年目の教職生活は、教員としてのやりがいを実感しつつ、指導の難しさや自分の未熟さを痛感したことも少なからずあったのではないかと思います。

設定したテーマに沿って、学び、振り返り、自分の言葉で語り、また新たな課題へ挑戦する、その繰り返しが「自ら学び続ける教員」への確かな一歩です。受講者の感想には、「**改めて『子どもの一生に関わる仕事』であるということを実感した。また、3年目を迎えるにあたって、何が大切なかということを考える良い機会になった。**」「**今後も向上心をもって積極的に学び、実践力や専門性を磨いていきたい。**」という言葉が見られました。

これからも、常に自分の実践を振り返りながら、向上心をもって自分の課題を追究していく努力が必要となります。3年目の春は、すぐそこまで来ています。



## 変えなければならないもの、変えてはいけないもの

アクティブ・ラーニング講座 (2/23)  
東洋大学 後藤顕一 教授

後藤教授から「劇的な変化を遂げるこれからの時代に、機械では絶対にできない『無から新しいものを生み出せる能力』『過去や既存の概念にとらわれない全く新しいアイデアを常に出し続ける能力』等のクリエイティブな力をどうはぐくんでいくのか、**この機を良いチャンスととらえ、学びの改革をすべきである。**」との講義がありました。

また、「今まで日本の教育が大切にしてきたことを評価し、更にこれから求められる力を意識して育てていくことが重要である。」として、アクティブ・ラーニングを視点にした授業改革と「子どもたちが学びの主役になる」「子どもたちが前のめりになるような楽しい授業」を創りあげる**教師の創意工夫ある教育実践の大切さ**を御教示いただきました。

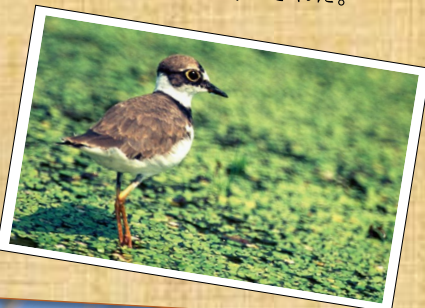
右の文章は、時代が変わっても「変えてはいけないもの」として、講義の最後に御紹介いただいたものです。

### 一枚の写真

右も左もわからない、ひたすら尖っていた教員駆け出しの頃、坂本教頭先生に出会った。恰幅のいい、豪快な先生であった。

文化祭のテーマで湿地に生息する生き物を扱うことを告げると、さりげなく何枚かの鳥の写真を持ってきてくださった。

その中の、この一枚の写真に私の心は奪われた。繊細でけなげな小鳥の表情、無垢なまなざし。アングルにも驚かされた。



「この写真どうやって撮られたのですか?」「水の中で4時間、四つん這いになって、待っていたら……出会えたんだよ。」と、にやりと笑った。

「どうしても傍におかせてください。」と無理言って、この写真をいただいた。

その後、しばらくして、坂本先生は、取り返しのつかない病に倒られ、わずか3か月後、帰らぬ人となった。

残されたこの一枚の写真は、今も私に、静かに、しかし強く、語りかけてくる。

「お前の目は曇っていないか。子どもを待ってやれているか、子どもと同じ目線で、向き合っているか。歩めているか。育てているか。」と。

私は、いつも坂本先生に見守られている。

# 平成30年度 中堅教諭等資質向上研修について



教員免許状更新講習との時期的な重なりからくる負担の緩和など「教職員の働き方改革」の一環として、中堅教諭等資質向上研修の構成を変更します。

## 除算制度の廃止により対象者を変更します

教育公務員特例法の一部改正により、中堅教諭等資質向上研修の受講対象者について、**除算（育児休業など特別な理由で休んでいた年数を引いて、在職期間を計算すること）が廃止**となりました。

受講対象者

- ・平成21年度に京都府に採用された方
- ・平成6年度から平成20年度までに採用された方のうち、**中堅教諭等資質向上研修又は10年経験者研修をまだ受講していない方**
- ・他府県又は私学で採用され、**在職期間を合わせると10年目**になる方

平成21年度以降に中堅教諭等資質向上研修又は10年経験者研修を受講完了された方は、**研修履歴一覧表に「済」が記載されています**。個人でも受講管理システムから研修履歴一覧表を閲覧できるので、御確認ください。

研修等履修状況

初任研等	履修	必修	10年経験者	履修	必修	選択
	済	25		済	7	3

標準履修単位数	※
2～6年	必修 3 選択 3

※採用年度や

センター研修 取得単位詳細



他府県で中堅教諭等資質向上研修又は10年経験者研修を受講された方は対象外です。

育児休業など平成30年度に受講できない場合は**学校から猶予届を提出**し、受講可能年度になり次第、受講してください。

## 受講内容の大きな3つの変更点

### 変更点1：必修講座について

必修講座は従来の一泊講座を**半日講座**で開催します。

「共通」講座Ⅰと「共通」講座Ⅴは、**どちらも2回開催し、選択して受講**できます。「共通」講座Ⅱ・Ⅲ・Ⅳは**夏季休業中2講座、冬季休業中1講座**を開催します。

講座	日程	備考
「共通」講座Ⅰa	5/18(金)	どちらかを受講。申込不要。
「共通」講座Ⅰb	5/22(火)	
「共通」講座Ⅱ	7/30(月)	
「共通」講座Ⅲ	8/22(水)	
「共通」講座Ⅳ	12/26(水)	
「共通」講座Ⅴa	1/25(金)	どちらかを受講。申込不要。
「共通」講座Ⅴb	1/29(火)	

※日程は予定です。

### 変更点2：選択講座について

選択講座は単年度で単位を履修するのではなく、複数年のうちに**単位制履修制度の選択単位として履修**します。

### 変更点3：他校種体験研修について

従前の他校種体験研修は実施しません。これまでの他校種体験研修での単位分は**選択単位として履修**します。

### 単位制履修制度早分かり表（教諭の例）

必修	年期	年	選択
初任者研修	20単位	初任期	1
2年目教員 ステップアップ研修	8単位	2～6年目	2
			3
			4
			5
			6
			7
京都府の教育公務員として基盤となる基本事項	5単位 (1単位増)	7～9年目	8
			9
			10
中堅教諭等 資質向上研修	5単位	10年目	10
			11
他校種 体験研修の 2単位減	2単位減	11～15年目	11
			12
			13
			14
			15
◇教職への使命感と 職業への自覚の向上 ◇教育をめぐる現状と 今日的課題を知り、 問題解決への意識を 向上	9単位 (1単位増)	16年目以降	16
			17
33単位		27単位	

※中堅教諭等資質向上研修の選択3単位は、7～15年目に計画的に受講する。  
指導的力量的向上に向け、標準的な単位13単位

詳しくはこちら！

教諭の生涯にわたる標準的な単位 60単位

※今後の教育を取り巻く環境・状況の変化に伴い、変更する場合があります。

国・京都府教育委員会・各教育局・市町（組合）教育委員会実施の研修の一部も選択講座の受講単位に充当します。

「教職員の働き方改革」の実現を力強く支援！

## 平成30年度 総合教育センター7つの取組

### 研修講座全般

二ーズの高い講座を厳選。実施時間についても半日開催講座を20講座増やします。

### Web活用講座の実施

京都教育大学と連携し、作成したWebコンテンツを活用した講座を実施します。

### 単位制履修制度の拡充

市町（組合）教育委員会が実施する研修の一部をセンター講座として単位認定します。

### 出前講座の拡充

「小学校外国語教育」「道徳教育」等に加え「プログラミング教育」「カリキュラム・マネジメント」等の出前講座を新設します。

### マネジメント力の向上

管理職対象講座等で「働き方改革」について講義。キャリアステージに合わせたセルフマネジメント等各種マネジメント関連講座を開講します。

### 京都式スクールソーシャルワーカー（まなび・生活アドバイザー）養成

スクールソーシャルワーク講座を新設。まなび・生活アドバイザーの力量向上のため関係講座の聴講を推奨します。

### 本庁各課等との連携

小学校外国語講座を本庁と連携。また、京都府スーパーサポートセンター等と連携し、通級等特別支援の多様な学びに関する講座を開設します。

詳細は次号で紹介！



センターだよりに関する御意見、御感想はこちら

E-mail:ed-center-kenkyu@pref.kyoto.lg.jp